

環境マネジメントシステム

世界の全拠点で高度で同質な環境マネジメントを行う グローバル環境経営を進めます

グローバル環境経営の推進

グローバル環境経営を実践するため、以下の項目に注力しています。

■ 第1回グローバル環境会議を開催

2007年12月、海外全生産拠点の経営責任者が一同に会し、第1回グローバル環境会議を開催しました。同会議では社長が

グループ全体で同質の環境経営を推進することの重要性を述べ、今後取り組むべき具体的な行動計画が審議されました。

主な決議事項

1. 海外拠点でのゼロエミッション活動を2008年に開始し、2011年までに達成する。
2. 海外拠点(会社)ごとの環境報告書を2011年までに発行する。
3. 「YOKOHAMA千年の杜」プロジェクトの海外展開を進める。

■ ISO14001の取得を基本として

グローバル環境経営の基本は各拠点でのISO14001の認証取得です。2007年度は新たに米国のヨコハマタイヤコーポレーション(4月)、サスラバーカンパニー(12月)、タイのヨコハマタイヤマニュファクチャリング(タイ)(7月)、中国の横浜密封材料(杭州)有限公司(1月)の4拠点が認証

を取得しました。これにより国内外の生産拠点に従事する従業員の95.2%(人数比)がISO14001に則った環境経営を実践しています。未取得の生産拠点においても認証取得に向けた活動を開始しています。



■ グローバル環境監査の実施

「世界の全拠点で高度で同質な環境経営」を行うことを目的に、2006年度から海外生産拠点でも環境「GD100」の実践状況及びISO14001の運用に対する監査を実施しています。



監査の様子(左は米国のサスラバーカンパニー、右は中国の杭州横浜輪胎有限公司)

管理・販売拠点における環境経営の実践

本社機構^{※1}においてはISO14001に沿った環境活動として「環境に影響を与える本来業務」を17課題取り上げ、活動に取り組んでいます。

国内のグループ販売会社32社では2007年から環境「GD100」ガイドラインによる環境経営を実践し、各社ごとの環境方針を掲げています。また、全販売会社で環境管理項目の

集計システム・目標管理の運用が開始され、その結果、ガイドラインによる環境経営自己評価点は2006年度に比べ18%向上しました。

2008年度は海外販売会社でも環境「GD100」ガイドラインに沿った環境経営を展開していきます。

※1：横浜ゴム統括管理業務部門及びその付帯業務を行う完全子会社の本社業務部門

総合的な環境監査の実施

全社監査、外部監査(ISO14001)、内部監査(ISO14001)により、事業所単位で環境経営、環境パフォーマンス向上、環境リスク極小化の継続的改善を監査しています。2007年度からは国内グループ販売会社32社の環境「GD100」ガイドラ

インに基づく自己評価点をCSR・環境推進室が監査し、環境貢献賞のオフィス賞(P18参照)の選考に反映しています。なお、2007年度の全ての監査において環境法令違反指摘はありませんでした。

■ 全社監査

CSR・環境推進室が毎年、重点監査課題を決定し、全拠点においてその課題に関する監査を実施しています。2007年度は過去3年間の「環境ヒヤリ^{※2}」109件についてその対策が有効に継続していることを確認しました。全社監査の結果は環境貢献賞のファクトリー賞(P18参照)の選考に反映しています。

※2：工場外や地域への環境事故には至ってないが、対策を講じなければその可能性があった工程内の漏れや飛散などの発生事象

■ 外部監査(ISO14001)

ISO審査登録機関によって横浜ゴム全工場で定期・更新監査を受審し、全工場で認証を継続・更新しました。

■ 内部監査(ISO14001)

ISO14001のマニュアルに基づき、2007年度は全工場ですべて32日間実施しました。内部監査を通じて「環境を良くする本来業務」への取り組み強化を図っています。内部監査能力の向上に伴って2007年度は「影響を及ぼす環境側面」における指摘が増加しました。

平塚製造所の指摘事項件数

	2006年度	2007年度
改善の機会	39	45
軽欠点(改善を必要とする)	7	19

環境教育・啓発のレベルアップ

新規採用者への教育課程に環境教育を組み込んでいるほか、入社2、3年の技術者を中心に環境教育「テクノカレッジ」を開催しており、2007年度は35名が受講しました。

また、ISO14001への理解を深めるため、内部監査員養成教育を実施し、2007年度の44名を含め、現在315名が内部監査員として活躍しています。eラーニングによる一般環境教育も開始し581名が修了しました。

環境啓発活動では毎年2月の省エネ月間、6月の環境月間に全従業員に向けた社長メッセージを実施しています。

環境月間行事への参加

環境月間行事として環境標語、環境ポスターを社内公募しており、2008年度は環境標語2,664件(2007年度比35%増)、環境ポスター117件(2007年度比85%増)の応募がありました。



製造3課 青木正和の作品(新城工場)

環境貢献賞制度で従業員意識を向上

横浜ゴムグループ全体の環境貢献活動に対する理解の浸透、行動の更なる促進を図るため、2006年11月に制定した「環境貢献賞制度」に基づき、著しい成果を挙げた会社、部門に社長表彰の「環境貢献賞」を授与しています。表彰制度は生産系の事業所・会社が対象の「環境貢献ファクトリー賞」、

研究・開発・技術部門が対象の「環境貢献プロダクツ賞」、非生産部門の販売・管理系の事業所・会社が対象の「環境貢献オフィス賞」の3つからなります。2007年5月に実施された第2回表彰式では国内外25件の応募の中から12の部門及び関連会社が表彰されました。

第2回環境貢献賞の受賞一覧

環境貢献ファクトリー賞	優秀賞	三重工場	環境貢献オフィス賞	優秀賞	地球温暖化対策委員会物流分科会
	努力賞	ヨコハマタイヤコーポレーション		努力賞	鹿児島ヨコハマタイヤ(株)
		ヨコハマタイヤフィリピンINC. ヨコハマタイヤマニュファクチャリング(タイ)		努力賞	横浜ゴムMBC(株) ヨコハマタイヤ東北販売(株)
環境貢献プロダクツ賞	優秀賞	PC第一設計部/タイヤ材料設計部	環境貢献特別賞	どんぐり大賞	新城工場
	努力賞	タイヤ材料設計部			
		工業資材技術部			

地域の皆さまとの相互理解を促進

地域住民の皆さまのご意見を頂く機会を継続的に設け、工場活動に対する理解を深めています。2007年度は国内生産拠点で延べ85名の方が工場を訪問され、貴重なご意見を頂

くことができました。また、環境展などへの参加を通して環境活動をより多くの方に紹介しています。2007年度は販売会社も地元的环境フェアに参加しました。

地域との相互理解活動(2007年度)

地域住民との対話	平塚製造所	意見を聴く会(P52参照)
	三重工場	意見を聴く会(P52参照)
	三島工場	懇談会
		環境モニターの訪問
	新城工場	工場環境施設見学会及び懇談会
茨城工場	工場環境施設見学会	
環境展への出展	平塚製造所	湘南ひらつかテクノフェア 平塚市環境フェア
	尾道工場	環境まつり in 尾道
	平塚東工場	ひらつかCO ₂ CO ₂ プラン
	ヨコハマタイヤ静岡販売(株)	しずおか環境・森林フェア
	本社	港区企業環境展 エコプロダクツ2007



意見を聴く会(三重工場)



しずおか環境・森林フェア(ヨコハマタイヤ静岡販売)

2007年度の苦情件数は前年度比10件減少

「日常管理の徹底」と「原因に遡った源流対策」の両面から苦情発生への対策を図った結果、2007年度の苦情件数は2006年度に比べ10件減少しました。また、環境事故の予防策として①過去の発生事例の再発防止を図るため全社監査の実施、②「環境ヒヤリ」の見える化による予防策の水平展開に努めています。

苦情件数の推移

